

## 必須問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（3）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：薬剤師を取り巻く法律と制度

### 【作成意図】

処方せんに基づく調剤を行うときの法律上の義務を理解しているかを問う。

問題（3）薬局において、調剤済みの処方せんに薬剤師が記載しなければならない事項として、誤っているものを1つ選べ。

- a. 調剤年月日
- b. 処方医への照会後に変更となった調剤の内容
- c. 薬歴作成時に知り得た患者の特記すべき体質
- d. 調剤済みの旨
- e. 調剤した薬局の名称及び所在地

### 【正 解】 c

【解 説】調剤済みとなった処方せんへの記載事項は以下のとおりである（法第 26 条、規則第 15 条）また、処方せんに調剤した薬剤師の記名押印又は署名をする必要がある。

- ・調剤済みの旨
- ・調剤年月日
- ・調剤した薬局又は病院若しくは診療所若しくは飼育動物診療施設の名称及び所在地
- ・医師、歯科医師又は獣医師の同意を得て処方せんに記載された医薬品を変更して調剤した場合には、その変更の内容
- ・医師、歯科医師又は獣医師に疑わしい点を確認した場合には、その回答の内容

必須問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（4）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：ヒューマニズム

出題範囲のユニット：医療の担い手としてのこころ構え

【作成意図】

医療における倫理の原則を理解しているかを問う。

問題（4）ヘルシンキ宣言の基本原則にあてはまらないものを1つ選べ。

- a. 被験者のプライバシーおよび尊厳を守ること
- b. 研究計画書は倫理審査委員会で審査すること
- c. 被験者の福利よりも社会的利益を優先すること
- d. 被験者はいつでも研究への参加を取りやめる権利を有すること
- e. 被験者は十分説明を受けたうえで研究に参加するものであること

【正 解】 c

【解 説】ヘルシンキ宣言は、ヒトを対象とする医学研究に関わる医師、その他の関係者に対する指針を示す倫理的原則である。

c. ヒトを対象とする医学研究においては、被験者の福利に対する配慮が科学のおよび社会的利益よりも優先されなければならない。

必須問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（5）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：医薬品の開発と生産

出題範囲のユニット：医薬品開発と生産のながれ

【作成意図】

医薬品開発の基本的な流れを理解しているかを問う。

問題（5）新医薬品の開発から製造販売後の過程を示す以下の項目のうち、最も早い段階で行われるものを1つ選べ。

- a. 副作用・感染症報告制度における企業報告の開始
- b. 市販直後調査の開始
- c. 治験の開始
- d. 薬価の申請
- e. 製造販売承認の申請

【正 解】c

【解 説】製造販売承認前に開始されるものはcの治験のみである。

理論問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（1）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：薬剤師を取り巻く法律と制度

【作成意図】

独立行政法人医薬品医療機器総合機構法における健康被害救済制度の救済給付の対象となる場合とそうでない場合との判別ができるかを問う。

問題（1）薬局の薬剤師が利用者から副作用被害についての相談を受けた。薬剤師が利用者に医薬品副作用被害救済制度の救済給付について説明する内容として、正しいものを2つ選べ。なお、説明中の薬剤および医薬品は許可医薬品であり、副作用の程度は、入院治療を要する程度の疾病、障害又は死亡であるとする。

- a. 被害者以外の者に処方された薬剤による副作用被害であっても救済給付の対象となる。
- b. 予防接種法の規定によらずに、任意に予防接種を受けて生じた副作用被害は、救済給付の対象となる。
- c. 使用した医薬品の添付文書に記載された副作用による健康被害は、救済給付の対象にはならない。
- d. 健康被害の原因となった医薬品について、すでに賠償の責任を有する者が明らかである場合には、救済給付は行われない。
- e. 救命のためやむを得ず通常の使用量を超えて医薬品を使用したことによる副作用は、たとえその副作用の発生が予想されていたとしても救済給付の対象となる。

【正 解】 b、d

【解 説】副作用被害救済制度は、医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による健康被害者に対して各種の副作用救済給付を行い、被害者の迅速な救済を図ることを目的とした公的制度である（医薬品医療機器総合機構法）。

- a. 他人の処方薬剤の使用は医薬品の適正な使用にはあてはまらない。適正な使用とは、原則的には医薬品の容器あるいは添付文書に記載されている用法・用量及び使用上の注意に従って使用されることが基本となるが、個別の事例については、現在の医学・薬学の学問水準に照らして総合的な見地から判断される。
- b. 任意に受けた予防接種の副作用による健康被害は救済給付の対象となる。
- c. 医薬品による副作用とは健康被害が医薬品によることが明らかでない場合をいい、添付文書に記載されているような既知の副作用が発生した場合も救済の対象となる。

d. 副作用救済給付を受けている者に係る疾病、障害又は死亡の原因となった許可医薬品について賠償の責任を有する者がいることが明らかとなった場合には、以後副作用救済給付は行わない。(法第 18 条)

e. がんその他の特殊疾病に使用される医薬品で厚生労働大臣の指定するもの(対象除外医薬品)等による場合、救命のためやむを得ず通常の使用量を超えて医薬品を使用したことによる健康被害でその発生が予め認識されていた等の場合は救済給付の対象とならない(法第 4 条第 5 項)

## 理論問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（2）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：薬剤師を取り巻く法律と制度

### 【作成意図】

医療機関や薬局等で個人情報を取り扱う薬剤師が、患者本人の同意を得ないで第三者に情報提供することが認められる場合を理解しているかを問う。選択肢には個人情報の保護に関する法律第23条の規定に基づく例を示した。

問題（2）個人情報保護法における個人情報取扱事業者に該当する薬局において、取得した個人の診療情報をあらかじめ本人の同意を得ないで第三者に情報提供することが認められる場合に該当するものを2つ選べ。

- a. 患者の家族と名乗る人物が、患者の病状について電話で問い合わせてきた場合で、患者本人の同意を得ることが困難であるとき。
- b. 患者の友人と名乗る人物が、患者本人の同意を得たと申し出たうえで、患者の服用薬剤について問い合わせてきたとき。
- c. 虐待から患者自身を保護するために行政等に情報を提供する場合で、患者本人の同意を得ることが困難であるとき。
- d. 第三者に情報提供することについて、患者本人の同意を得ようとする、患者の治療に悪影響を与えるであろうことが予測できるとき。
- e. 患者に生じた副作用について、その医薬品を製造販売した企業に情報を提供するとき。

【正 解】 c、e

### 【解 説】 個人情報の保護に関する法律 第23条

個人情報取扱事業者は、次に掲げる場合を除くほか、あらかじめ本人の同意を得ないで、個人データを第三者に提供してはならない。

1. 法令に基づく場合
2. 人の生命、身体又は財産の保護のために必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。
3. 公衆衛生の向上又は児童の健全な育成の推進のために特に必要がある場合であって、本人の同意を得ることが困難であるとき。

4. 国の機関若しくは地方公共団体又はその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であつて、本人の同意を得ることにより当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがあるとき。

## 理論問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（3）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：薬剤師を取り巻く法律と制度

### 【作成意図】

覚せい剤取締法における覚せい剤原料の取り扱いについて、具体的場面における取り扱いの判断ができるかを問う。

問題（3）患者（60歳男性）が次の処方せんを薬局に持参した。セレギリン塩酸塩錠の取り扱いについて、適切なものを1つ選べ。なお、文中の薬局の開設者は、いずれも覚せい剤原料取扱者の指定は受けていない。

処方） レボドパ錠	1回1錠	1日3回	毎食後	30日分
セレギリン塩酸塩錠 2.5 mg	1回2錠	1日2回	朝昼食後	30日分

- セレギリン塩酸塩錠の在庫が不足していたので、卸売販売業者からセレギリン塩酸塩錠を購入した。その際、卸売販売業者に譲受証を渡し、譲渡証を受け取った。
- セレギリン塩酸塩錠をモルヒネ塩酸塩錠と一緒に金庫に保管した。
- 処方せんに基づいて調剤した薬剤を患者に交付し、患者から譲受証を受け取った。
- 有効期限切れ間近のセレギリン塩酸塩錠があったので、回収できない形で廃棄し、翌日都道府県知事に届け出た。
- セレギリン塩酸塩錠の在庫が不足していたので、近隣の薬局から譲ってもらった。

【正 解】 a

【解 説】 塩散セレギリン錠は覚せい剤原料に該当する。

- 覚せい剤原料の譲渡、譲受をする場合には、譲渡証、譲受証の受け渡しが必要であるが、薬剤師が処方せんにより調剤した医薬品である覚せい剤原料を処方せんを所持する者に譲り渡す場合はその必要はない。（法第30条の10）
- 覚せい剤原料の保管場所は薬局内の鍵をかけた場所である（法第30条の12）。しかし、塩酸モルヒネは麻薬であり、「麻薬及び向精神薬取締法」の規定により、麻薬は覚せい剤以外のものと一緒に金庫に保管することはできない。
- 覚せい剤原料を廃棄しようとするときは、薬局の所在地の都道府県知事に届け出て当該職員の立会の下に行なわなければならない。（法第30条の13）

e. 覚せい剤原料取扱者の指定を受けていない場合は、所持する覚せい剤原料を処方せんを持参した者以外に譲渡することはできない。(法第 30 条の 9)

理論問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（4）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：社会保障制度と薬剤経済

【作成意図】

新しい分野の出題例として、薬剤経済分析の重要な指標である ICER（増分費用効果比）について、計算を用いて理解（知識・技能）しているかを問う問題を作成した。なお、ICERの求め方は設問文で示しているため、数値を当てはめれば正しい答えを算出することができる。

問題（4）薬剤経済分析で用いられる ICER（増分費用効果比）は、以下の式で計算される。

$$\text{ICER (増分費用効果比)} = \text{コストの差} / \text{アウトカムの差}$$

次のシナリオにおいて、新薬 A の従来薬 B に対する ICER（増分費用効果比）として最も適切な値はどれか。なお、シナリオ中の費用は割引現在価値で表している。

シナリオ

ある疾患に対して、新薬 A による治療の総費用は 210 万円かかるが、結果として平均的に合計 7 QALY 得ることができた。一方、従来薬 B による治療の総費用は 100 万円かかるが、結果として平均的に合計 5 QALY 得ることができた。

- a. 55 万円
- b. 75 万円
- c. 100 万円
- d. 110 万円
- e. 210 万円

【正 解】 a

【解 説】

$$\text{ICER} = (210 \text{ 万円} - 100 \text{ 万円}) / (7\text{QALY} - 5\text{QALY}) = 55 \text{ 万円} / \text{QALY}$$

理論問題分野別問題番号：法規・制度・倫理（5）

分野：法規・制度・倫理

出題範囲の細目：薬学と社会

出題範囲のユニット：コミュニティーファーマシー

【出題意図】

保険薬局の薬剤師が行う在宅医療の業務を通じて、地域薬局の役割を理解しているかを問う。

問題（5）在宅医療における保険薬局および保険薬剤師の役割についての説明として、正しいものを2つ選べ。

- a. 保険薬剤師は、医師の訪問薬剤管理指導依頼書がなければ患者の居宅を訪問することはできない。
- b. 居宅で療養する患者の保険処方せんをファクシミリで受けた場合、処方せんの原本を受け取る必要はない。
- c. 患者の退院時や在宅のサービス提供者会議等に保険薬剤師が同席し、医療機関や在宅医療に関わる他職種との情報共有と意見交換を行うことが望まれる。
- d. 居宅で療養する患者に対して保険薬剤師が行う薬学管理指導には、薬剤の保管状況を確認することも含まれる。
- e. 患者の副作用発現状況を確認するための体調チェックは介護者および看護師が行い、薬剤師は薬剤の情報提供に専念する。

【正 解】 c、d

【解 説】

- a. 医師の指示が必要であるが、文書（処方せん、依頼書）による指示だけでなく口頭による指示の場合もある。
- b. 処方せんの原本を受け取らなければ調剤した薬剤を交付することはできない。なお、処方せんの受け取りは麻薬処方せんも含めて患者の居宅での受け取ることが可能である。
- e. 薬学管理指導業務には、副作用発現状況の確認も含まれる。

必須問題分野別問題番号：実務（病院）（1）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：医療人としての薬剤師

【作成意図】

職務上知り得た（個人）情報の守秘義務および保護についての基本的理解を問う。

問題（1）患者情報に関する次の記述で、薬剤師としての行為で適正なものはどれか1つ選びなさい。

- a. 病院の喫茶室で、医師と患者の今後の治療方針について打ち合わせを行なった。
- b. 他の病院の救命・救急担当医から処方歴の問い合わせがあり、緊急であったため本人の同意を確認せず知らせた。
- c. 入院患者の勤務する会社から、処方薬の問い合わせがあり知らせた。
- d. 市内の薬剤師仲間で、勉強のため患者の病歴と処方歴の生データを持ち合って討議した。勉強会であるので、同意は得ていない。
- e. 知り合いが入院してきた（意識鮮明）ので、病院のコンピュータシステムで病名を確認して患者家族に連絡した。

【正 解】 b

【解 説】

- a. 他人に患者情報が漏れる可能性が高いので不適切。
- b. 生命の危険があり緊急の場合は、救命措置に必要である情報提供は許される。
- c. 基本的に本人の了解が必要である。患者が意志確認できないような状態であった場合でも、法的に患者の代理と成り得る人の同意が必要である。
- d. 勉強のためであったとしても、患者の個人情報の生データを同意なしに持ち出し、他の病院に勤務する薬剤師に提示するのは個人情報の保護および臨床研究の倫理から外れる。
- e. 病院内であっても、職務と関連する患者の情報しか得てはならない。また、それを家族といえども、患者の同意なしに漏らしてはならない。

## 必須問題分野別問題番号：実務（病院）（2）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：病院調剤を实践する・ベッドサイドで学ぶ

### 【作成意図】

睡眠薬の理解を確認する。

問題（2）81歳、女性の患者。服薬指導のため病室を訪問した際、患者から夜寝つけずに困っているとの訴えを聴取した。投薬の必要があれば、次の薬剤の中で主治医に処方推奨する薬剤はどれか1つ選びなさい。

- a. ゾルピデム
- b. フルボキサミン
- c. ニトラゼパム
- d. フルニトラゼパム
- e. フェノバルビタール

【正 解】 a

### 【解 説】

入眠に問題があるので、**T<sub>max</sub>**が小さく、半減期が短い睡眠剤を選択する。高齢者であるので、転倒の危険性のより小さい $\omega 1$ 受容体選択性の薬剤を選ぶ。なお、a以外の他の薬剤は入眠障害には適さない。病院で病棟での実習を受けていれば、直ぐに解けるはずである。

必須問題分野別問題番号：実務（病院）（3）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：病院調剤を实践する

【作成意図】

注射用抗がん薬の調剤において、推奨される手技および器具の目的に関する理解を問う。

問題（3）注射用抗がん薬の調剤において、次の記述で正しいものを1つ選びなさい。

- a. バイアル内を陰圧に保って調製しなければならない。
- b. クリーンベンチ内で調製しなければならない。
- c. 滅菌済みのガウンおよび手袋を着用して調製しなければならない。
- d. 必ず、無菌室内で調製を行わなければならない。
- e. 調剤後は作業区域を消毒用エタノールで清拭しなければならない。

【正 解】 a

【解 説】

- a. バイアル内を陰圧に保つことにより、ゴム栓から針を抜くときにピンホールから発生するエアロゾルによる汚染を防ぐことができる。
- b. 抗がん薬の調製には、安全キャビネットを使用する。クリーンベンチは抗がん薬に汚染された空気が作業区域に排気されるので適さない。
- c. ガウンや手袋の着用は被ばくを防ぐために必要であるが、滅菌済みである必要はない。滅菌済みの装備を使用する目的は、細菌汚染の回避である。
- d. 必ずしも無菌室内で行なう必要はなく、清潔でできれば隔離された部屋に設置した安全キャビネット内で調製を行なう。
- e. 作業区域の清拭に用いる洗浄剤は、抗がん薬を不活化する水酸化ナトリウム水溶液等が推奨されている。消毒用エタノールは揮発性が高く、抗がん薬を拡散させるおそれがあるので適さない。

必須問題分野別問題番号：実務（病院）（4）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：情報を正しく使う

【作成意図】

消毒薬の基本的な知識を問う。

問題（4）病棟の看護師から、HBs 抗原陽性の患者の血液を床にこぼしたので、ふき取った後何で消毒したら良いかと問い合わせがあった。次の消毒薬の中で、看護師に回答すべきものはどれか1つ選びなさい。

- a. 次亜塩素酸ナトリウム
- b. ポビドンヨード
- c. 消毒用アルコール
- d. グルタラール
- e. クレゾール石鹼液

【正 解】 a

【解 説】

HBV に対して、有効な消毒薬は次亜塩素酸ナトリウムとグルタラールであるが、グルタラールは毒性が強過ぎて、作業環境への適用は不適である。次亜塩素酸ナトリウムは、その抗ウイルス作用や高濃度液の有機物分解作用を利用して汚染血液の付着した床の消毒や、低濃度液の低残留性を利用して食器や哺乳瓶、リネンなどに用いられる。他の消毒薬は効果がない。しかし、汚染面が金属である場合は、次亜塩素酸ナトリウムは不適切で、消毒用アルコールによる清拭を選択することが最も妥当である。

必須問題分野別問題番号：実務（病院）（5）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：ベッドサイドで学ぶ

【作成意図】

病棟での対応および重篤な副作用（有害反応）の初期症状についての基礎的知識を問う。

問題（5）処方薬が追加になった患者の服薬状況等を確認するために病棟を訪問した。「薬を飲んだ後に口の中がヒリヒリする」との訴えを聴取した。薬剤師の患者への対応で、まず最初に発言する必要がある内容は、次のうちどれか1つ選びなさい。

- a. 「1回ほど、薬をやめてみますか」
- b. 「主治医に伝えておきます」
- c. 「しばらくして良くなるかもしれませんが、少し様子を見ましょう。」
- d. 「薬が増えてから、そうになりましたか」
- e. 「口内炎の薬を出してもらうように、主治医に言っておきます」

【正 解】 d

【解 説】

薬剤のアレルギーも考えられ、まず、追加となった薬で起っていることかどうかを確認することが重要である。そうであれば、医師に至急に連絡して中止を提言する。単に、医師へ連絡するとか独断で中止させるなどは、好ましくない。

スティーブンス・ジョンソン症候群や中毒性表皮壊死症などの一連の病態に急激に移行する場合もある。

## 理論問題分野別問題番号：実務（病院）（1）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：病院調剤を実践する・ベッドサイドで学ぶ

### 【作成意図】

基本的な薬剤の重大な有害反応とその対処方法を問う。

問題（1）36歳の入院加療中の男性。咽頭痛と38℃台の発熱に対し、アスピリン錠が処方された。アスピリン錠の服用30分後に突然呼吸困難と悪心とを訴えた。脈拍100/分、微弱。血圧60/40 mmHg。吸気時喘鳴と全身に蕁麻疹様の皮疹を認める。看護師から相談を受けた病棟薬剤師が、緊急に医師に連絡し最初に投与を推奨する薬剤を1つ選びなさい。

- a. 副腎皮質ステロイド薬
- b. 抗ヒスタミン薬
- c. インドメタシン
- d. アドレナリン（エピネフリン）
- e. アンピシリン

【正 解】 d

### 【解 説】

アナフィラキシーショック

血圧低下と声門浮腫による窒息死がもっとも重要であり、エピネフリンを第一に投与する。ステロイドは2～3時間以降に生じる遅発性のアナフィラキシー反応の予防に効果があるので投与する必要があるが、初期の反応には効果がないので、必ずアドレナリンをまず投与し、アミノフィリン、ステロイドの順に投与する。

理論問題分野別問題番号：実務（病院）（2）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：薬剤を造る調べる

【作成意図】

中毒医療での問い合わせに迅速に答えるための基本的知識を問う。

問題（2）18歳の男性。意識障害で家人に伴われて救急車で搬入された。家の手伝いで、午後の4時間あまり、水田の農薬散布を保護具なしで行なった。帰宅して1時間後ごろから多量の発汗と唾液分泌、嘔吐および下痢があり、めまいと頭痛とを訴えて意識が混濁した。体温36.0℃。脈拍48/分、整。血圧100 / 58 mmHg。縮瞳を認める。皮膚は湿潤していて発赤はない。骨格筋の線維性攣縮がある。腹部は平坦で、肝・脾は触知せず抵抗を認めない。尿検査は正常で、血清生化学検査ではAST: 35単位（基準40以下）、ALT: 30単位（基準35以下）、LDH: 300単位（基準176～353）、ALP: 200単位（基準260以下）、 $\gamma$ -GTP: 30単位（基準8～50）、コリンエステラーゼ: 60単位（基準400～800）、アミラーゼ: 40単位（基準37～100）、CK: 20単位（基準10～40）であった。動脈血ガス分析では、PaO<sub>2</sub>: 98 Torr、PaCO<sub>2</sub>: 40 Torrであった。吐物は乳白色で有機溶剤臭がする。農薬中毒が疑われるが、治療薬は何かと救急部から薬品情報室に問い合わせがあった。治療に適切な治療薬を次の中から2つ選びなさい。

- a. アトロピン
- b. PAM
- c. BAL
- d. EDTA
- e. D-ペニシラミン

【正 解】 a、b

【解 説】

縮瞳やコリンエステラーゼ低下、および吐物が乳白色で有機溶剤臭がすることから有機リン中毒である。コリンエステラーゼ阻害作用により、コリン作動性の副交感神経症状（多量の発汗、唾液分泌亢進、嘔吐・下痢、縮瞳）と中枢神経症状（意識低下）を認める。治療薬として、アトロピンとPAMを知っておく必要がある。

理論問題分野別問題番号：実務（病院）（3）

分野：実務（病院）

出題範囲の細目：病院実習

出題範囲のユニット：病院調剤を実践する・ベッドサイドで学ぶ

【作成意図】

抗がん薬の薬理（殺細胞）作用機序に関する理解、抗がん薬治療に伴う検査値異常と副作用発現の推測に関する基礎から臨床までの総合的知識を問う。

問題（3）非小細胞肺がんの男性患者（50歳、身長170 cm、体重60 kg）に対し、1クールを4週間として下記の化学療法が開始された。治療開始当日朝の検査値は、何れも正常範囲内であった。

シスプラチン	80 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注（30分）（第1日目）
イリノテカン塩酸塩水和物	60 mg/m <sup>2</sup>	点滴静注（60分）（第1、8、15日目）

治療開始後6日目の検査値は、白血球数 6,100 /  $\mu$ L、好中球数 3,200 /  $\mu$ L、血小板数 27万 /  $\mu$ L、AST 20 IU / L、ALT 16 IU / L、BUN 33 mg / dL、S-Cre 2.5 mg / dLであったため、8日目の抗がん剤投与を一旦中止するように医師に提案した。この患者に関する次の記述で、正しいものを2つ選びなさい。

- 腎機能障害が発生したと考えられる。
- 肝機能障害が発生したと考えられる。
- 骨髄機能障害が発生したと考えられる。
- この患者に発生した障害は、シスプラチンの用量規制因子である。
- この患者に発生した障害は、イリノテカン活性代謝物により誘発される副作用であり、用量規制因子である。

【正解】 a、d

### 【解 説】

白金系抗がん薬およびイリノテカンのがん細胞内標的器官に関する基礎知識を問う。シスプラチンは DNA 鎖内および鎖間の架橋を形成して DNA 合成を阻害する。イリノテカンは、I 型トポイソメラーゼを阻害することにより DNA 合成を阻害する。臨床検査値から、抗がん薬による副作用発現を推測する基本的知識を問う。血液検査値として白血球数（正常値 4,000 - 8,500 / $\mu$ L）、好中球数（正常値、2,000 - 6,800 / $\mu$ L）血小板数（正常値、13 - 36 万 / $\mu$ L）、肝機能検査値として、AST（正常値、8 - 40 IU / L）及び ALT（正常値、5 - 35 IU / L）、腎機能検査値として BUN（正常値、6 - 20 mg / dL）及び血清クレアチニン値 SCr（正常値、男性：0.8 - 1.3 mg / dL；女性 0.5 - 1.0 mg / dL）の各指標が、異常値であるか否かを問う。イリノテカンの用量規制因子は、消化器症状（下痢）と骨髄抑制である。